

ブティ & トラプントキルトの小物入れ

使用材料

- ・無地布(淡い色) - 90~110cm幅×30cm
- ・キルト芯 — 25×30cm
- ・綿コードまたは並太毛糸(白)
- ・化繊わた
- ・スナップ(10mm)1組
- ・キルト糸

使用用具

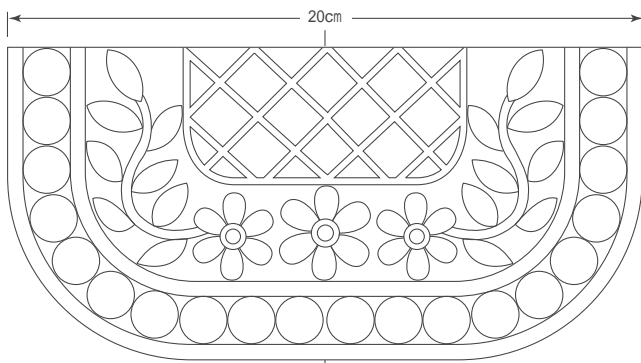
- ・クロバー水性チャコペン(青・細)
- ・クロバーボールポイント目打
- ・クロバー手芸用詰め込みスティック
- ・クロバーコード通しセット
- ・クロバーパッチワーク定規
- ・クロバー布用スプレーボンド
- ・はさみ・アイロン・ぬい針

一般に「トラプント」とは表布と裏布の間にキルト芯を入れてキルティングし、その後綿を詰めますが、キルト芯を入れずに表布と裏布のみで綿を詰めていく方法を「ブティ」といいます。

一見、同じように見えますが、初めての方にはキルト芯を入れない方が綿詰めやコード通しがやりやすいので、「ブティ」の方法で作りは説明してあります。

フタの図案

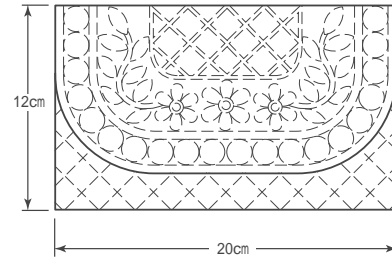
(フタの図案) 20cmの幅に拡大コピーして使用します



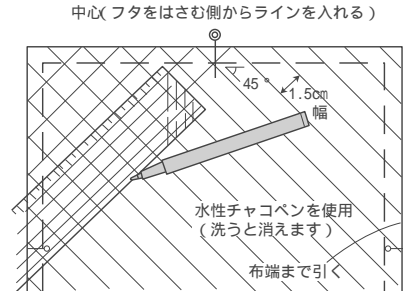
トラプントに適した布

トラプントキルトとは模様の輪郭をキルティングした後、裏から模様の部分に綿や毛糸を詰めて、模様を浮き上がらせる技法です。ふっくらと浮き上がった模様は、光をうけて陰影ができ、とても優雅です。通常無地で陰影がきれいに浮き上がる、淡い色の中厚地の布が適していますが、必ずしも白やオフホワイトでなくともよいと思います。平織りのシーチングやキャンブリックなどが一般的に扱いやすい素材として使用されます。上級者向きですが、綿やサテンや絹サテンなどの光沢のある素材を使用すると、美しい光と陰影を放つことができようになります。

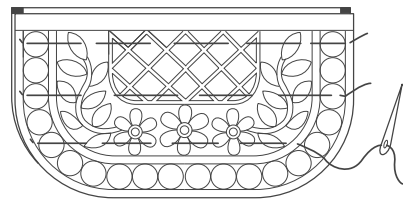
小物入れのつくり方



でき上がりサイズ 約12×20cm

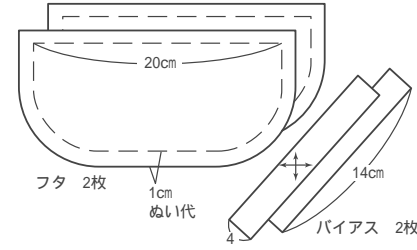


3. 本体の1枚にキルトラインを入れます。中心から45度の角度に1.5cmの間隔で水性チャコペンを使って引きます。



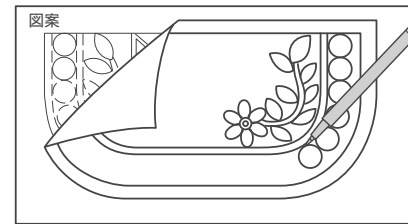
6. 表に返してしつけをかけます。

・裁断します

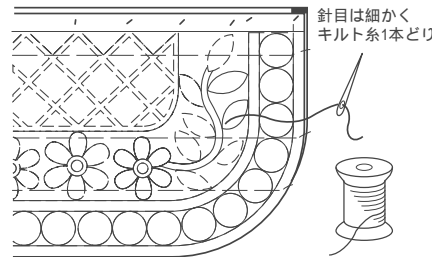


1. 図案を20cmの大きさに拡大し、1cmのぬい代をつけて、無地布でフタ2枚を裁ちます。4cm幅のバイアスを2枚裁ちます。

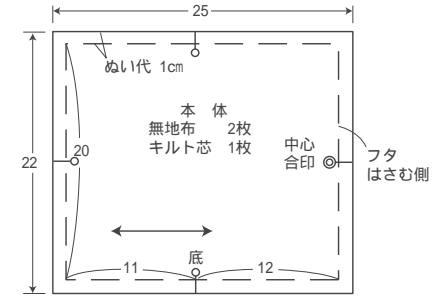
透けない布の場合は「クロバーチャコペン片面(クリアタイプ)」を使用



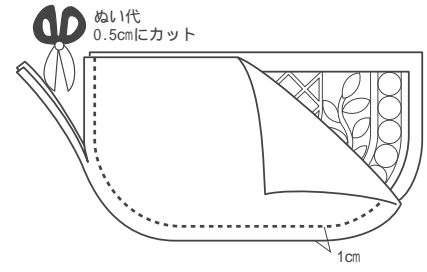
4. フタの布を図案に重ね、ずれないように固定し、水性チャコペンで1枚だけに図案を写します。



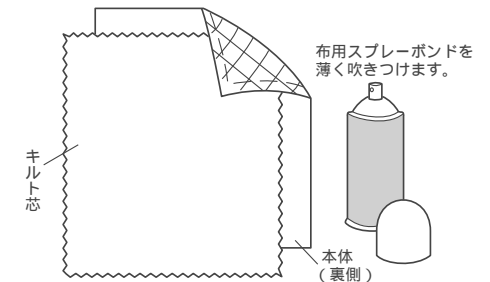
7. 図案線を細かくぐしぬいする。両面が見えるので、結び玉は中に入れて見えなくなるように始末します。



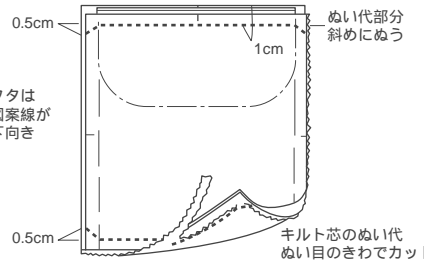
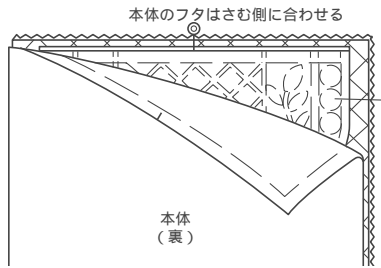
2. 無地布2枚・キルト芯1枚をぬい代をつけて裁ちます。



5. フタの布2枚を中表に合わせて外まわりをぬい、ぬい代を0.5cmに切りそろえ、表に戻します。

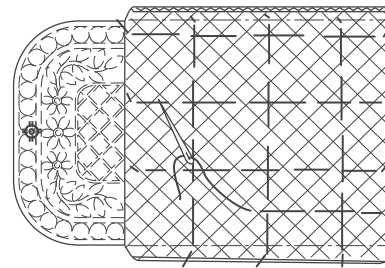


8. 本体のキルトラインを入れた裏側に、キルト芯を布用スプレーボンドで軽く仮接着させます。

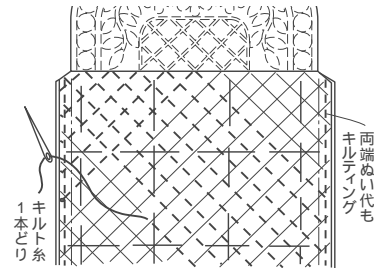


9.キルト芯を貼った本体側とフタの図案線が入っている側を中表に合わせ、その上にもう一枚の本体を中表に合わせます。

10.両端をぬい、端はぬい代で0.5cm内側にぬい込みます。キルト芯をぬい目のきわでカットします。

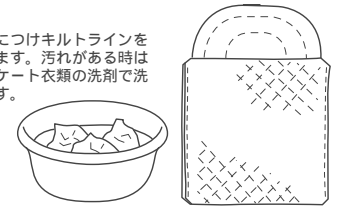


11.表に返し本体部分にしつけをかけます。



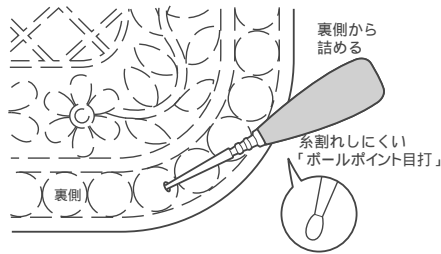
12.本体部分のキルティングをします。結び玉は見えないようにします。

水につけキルトラインを消します。汚れがある時はデリケート衣類の洗剤で洗います。



形を整え、平らな所で乾かす

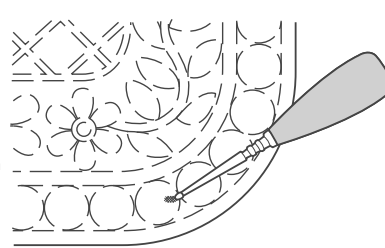
13.キルティングが終わったら、しつけ糸を取り水につけます。軽くしぼってタオルで押さえ、平らに伸ばして乾かします。



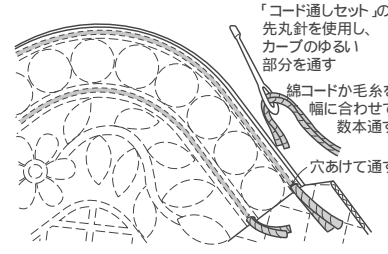
14.ボールポイント目打で裏側の布に穴をあけます。(布の織り糸を広げる感じで糸を切らないように注意!)



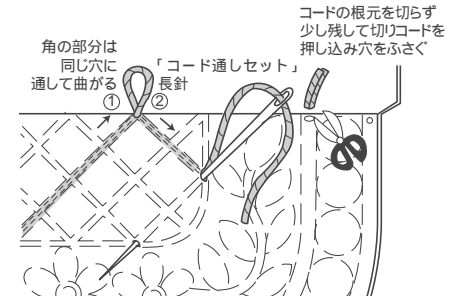
15.手芸用詰め込みスティックを使って、穴から化繊わたを入れます。わたの量は好みで加減して下さい。



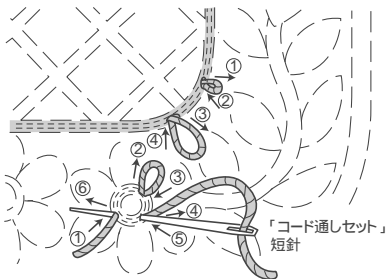
16.綿詰めめの終わった穴は、ボールポイント目打の先で、なでるようにこすって織り糸を戻し、穴をふさぎます。



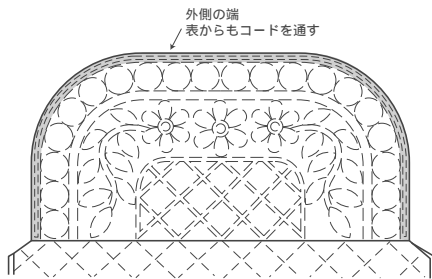
17.綿コードか毛糸を通す幅に合わせて数本束にして、コード通しセットの先丸針に通し、カーブのゆるい太い部分に通します。



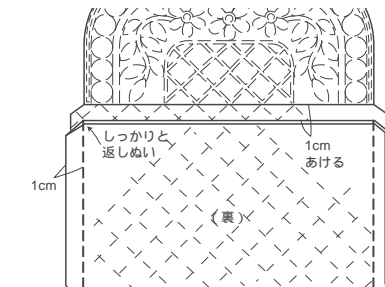
18.通し終わりは糸をよくしごいてから、少し残して切り穴に押し込み穴をふさぐ。直線部分は長針で通し、角は針を出した穴に戻して曲がる。



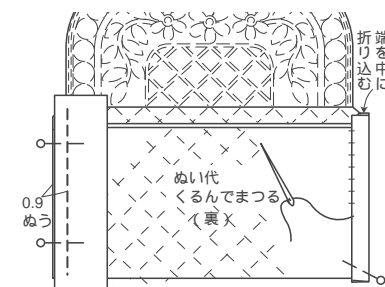
19.カーブのきつい部分は短針を使用し、数か所に分けて通します。丸い部分の終わりは、始めの穴に出します。一度出したコードは少したるませておき後で押込む方がきれいに仕上がります。



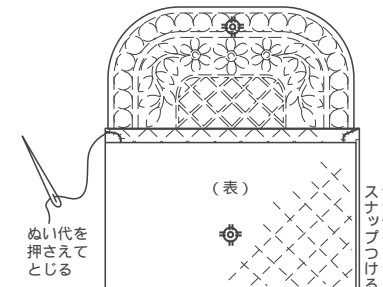
20.外側の端はぬい代があるため、ふくらみにくいのので表側からもコードを通します。



21.本体を中表に、フタから1cmずらして折り、両端をぬいます。



22.バイアス布を中表に合わせてぬい代をバイピング始末をします。



23.表に返してぬい代の端を本体に同じ、スナップをつけます。